

令和 8 年度第 1 回図書館協議会 会議録

日 時	令和 8 年 7 月 2 日（木） 午前 10 時	
場 所	アンフォーレ本館 3 階健康支援室・講座室	
出席委員	浮森 和美	委員
	家禰 淳一	委員
	濱田 桂子	委員
	渡邊 由香	委員
	杉田 加代子	委員
	石川 祐美子	委員
	片尾 息吹	委員
	蓑田 浩行	委員
	石川 良一	教育長
事 務 局	大見 雅康	市民生活部長
	沓名 広紀	アンフォーレ課長兼図書情報館長（以下館長）
	深津 悠	アンフォーレ課図書情報係長
	岡本 卓也	アンフォーレ課図書情報係専門主査
	羽尻 真之介	アンフォーレ課図書情報係主事
	足立 結	アンフォーレ課図書サービス係主事
	平岩 康彦	学校教育課研究係（図書館教育アドバイザー）
閉 会	午前 11 時 20 分	

事務局：本日はお忙しい中、令和 8 年度第 1 回安城市図書館協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

はじめに市民憲章の唱和を行います。皆様、ご起立をお願いいたします。市民憲章はスクリーンをご覧ください。

＜市民憲章唱和＞

ありがとうございました。ご着席ください。

次に、石川教育長から辞令の交付をさせていただきます。

＜辞令交付＞

ありがとうございました。他の委員の皆様には、自席の封筒の中にそれ

ぞれ辞令を入れさせていただきましたので、ご確認をお願いいたします。
続きまして、石川教育長からご挨拶を申し上げます。

＜教育長挨拶＞

次に、委員と事務局について説明いたします。スクリーンをご覧ください。今年度から濱田様、渡邊様、石川様、片尾様、蓑田様の 5 名が今年度新たに委員となっていております。また、事務局として大見、羽尻が新たに変わっております。

それでは次に移ります。

次に、次第 3「会長・副会長選任」について、ご説明します。

事務局：安城市図書館管理規則第 24 条第 1 項で、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定めると規定しています。どなたかご意見がございましたらお願いします。

委員：図書館協議会員の経験が豊富な浮森和美委員を会長に推薦いたします。また、副会長にはやはり経験豊富な家禰淳一委員を推薦いたします。

事務局：皆様、会長には浮森和美様、副会長には家禰淳一様とご意見がありました。よろしいでしょうか。

＜異議なしの声あり＞

事務局：ご異議なしということで決定いたしました。ありがとうございます。浮森委員、家禰委員、正面の会長席、副会長席にご移動をお願いいたします。ご協力ありがとうございます。
それでは浮森様、会長就任のご挨拶をお願いいたします。

会長：ご推薦をいただいたので、安城市図書館協議会の会長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。アンフォーレがオープンして、たくさんの利用者の方々に楽しんでいただいていると思いますが、今後は開館 10 周年を迎えることになります。それまでに、

またもっと多くの利用者の方に楽しんでいただけるように、この図書館を盛り立てていきたいなと思っております。これまで活発な協議がなされ、よりよい図書館になることを望んでおります。皆さん、よろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。それでは、次第 5 の「協議・報告事項」に移ります。協議・報告事項は慣例により取り回しを浮森会長にお願いいたします。

会長：それでは、協議報告事項（1）「令和 8 年度図書情報館事業計画について」、事務局の方から説明をお願いいたします。

＜深津係長が資料で説明＞

会長：ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問等ありましたら、挙手をお願いいたします。

システム更新の件で確認です。他の施設で図書情報館の利用者カードと同じリライトカードを使っていましたが、リライトカードが使えなくなるので別の材質のカードに変わった例がありました。図書館としては、こちらのリライトカードはまだ使えるのか伺いたいです。

事務局：リライトカードは生産中止により今後購入できなくなる見込みのため、今回のシステム更新に合わせて利用者カードをリライトカードからプラスチック製のカードへ更新します。今後の貸出等の運用は、従来のカードリーダー方式からバーコード読み取り方式へ変更します。現在の利用者カードは裏面のバーコードを読むことで引き続き使用可能です。

会長：他はございませんでしょうか。質問等ないようでしたら、協議報告事項（1）について終了させていただきたいと思います。続いて、協議事項（2）「令和 8 年度主な事業について」事務局の説明をお願いいたします。

＜深津係長が資料を説明＞

会長：それでは、協議報告事項（2）について、ご質問、ご意見等ございま

したらお願いします。

副会長：子どもカウンター（仮称）についてです。文部科学省が令和 8 年 3 月に公表した「図書館が拓く未来の学びと地域社会（報告書）」の中で最近の SNS や生成 AI の普及によって、子どもたちが偽情報、誤情報に接する機会が非常に増えております。その中で図書館が情報リテラシー向上を支援するという必要性も出てきていますので、子どもカウンター（仮称）を相談・レファレンス機能を担う場として位置づけ、SNS 時代・生成 AI 時代に対応した情報リテラシーを子どもに教えられるような運営をしていただければと強く思っております。

事務局：ありがとうございます。

委員：でんでんむしのへやの件ですが、私も土日はよくアンフォーレに来ます。ただ、来館しても本を借りて、遊んで帰ることが多いです。そのとき、でんでんむしのへやの中で何が行われているのかが外から分からず、もし本を読んでいるなら参加したいと思っても、靴を脱いで覗かないと分からない、外から回ってみないと分からないというのが難しいところだと感じています。今回、土足エリアを拡張するなら、入口右側の土足エリアから中で何が行われているかが一瞬で分かるように、窓などを設けられないでしょうか。そうすれば読み聞かせに人が集まるのではないかと思います。

館長：窓の設置は建物の構造上、今から新しく作るのは難しいです。その代わりに「どのグループが何をやっているか」が分かるように、新しく掲示板を設置する予定です。

館長：おはなし会の場合、「今日はどのグループがやる」だけでなく、「今日はこの本を読む」といった情報もあった方が良いでしょうか。

委員：はい。内容が重なっていると行かなくても良かったかなと思うときもあるので、今日は「何の絵本を、誰が読むか」が分かると思いいます。

館長：ありがとうございます。今日のお品書きのような形も含めて、そういう案内は可能でしょうか

会長：私が所属するおはなしレストランでは、お話のタイトルを出すことは可能です。今も会場内では、黒板ではない小さめの掲示に書いて案内しています。以前はコロナ禍前に小さなプログラムカードも作って配っていましたが、コロナ禍で渡せなくなり、その後は作らなくなりました。ただ、今はスマホで撮ってもらえるので、プログラムを1枚作って入口に提示することは可能だと思います。要望があれば会の中で相談して対応できます。他のグループも多分できると思いますが、各グループの状況は分かりません。

事務局：プログラムを印刷して、開始前に配るグループや、終わるときに「ぜひ家でも読んでください」と配るグループが多いと思います。

また、本は同じ本でも何回読んでも楽しいものなので、聞いたことのある本でもぜひおはなし会に入ってほしいという思いもあります。

入口に貼るのは、興味を持ってもらおうという意味で貼ってみるのも良いですし、どちらでも良い面はあると思います。

館長：他のおはなし会グループの状況も聞きながら検討します。

会長：それでは、でんでんむしのへやの件を続けて質問してもよろしいですか。土足エリアについて、先ほど「土足エリアがあった方が入りやすい」というご意見もありましたが、おはなし会を行う側としては心配な点があります。子どもが部屋の中を動くとき、特に乳幼児がハイハイで動き回る場合、土足エリアがあると靴が置かれることになると思います。靴を触ったり、土足のところにそのまま入ったり、外へ出てしまう可能性が大きくなるので、今さらの意見ではありますが、できれば部屋の中に土足エリアは作ってほしくないです。また、先ほど「中で何が行われているか分からない」というお話がありましたが、窓が3つほどあるので、そこから覗いて聞いている子もいます。中から「入っておいで」と言っても、「ここで良い」と言って、いったん離れてもまた窓のところに戻ってきて、窓越しに聞いている子も見かけます。なお、おはなし会の実施中は電子掲示板に「どこのグループがおはなし会をやっているか」は提示してありますが、あそこにプログラムまで書くことはできますか。

事務局：プログラムは情報量が多すぎて難しいので、掲示できるとしても

「何時にどの会がやる」程度までとなります。

会長：その下に貼り付ける、あるいは書いて置いておくといった形は可能ですか。

事務局：可能です。先ほど申し上げたように、入口にマグネットでポスター等を貼れるホワイトボードのような掲示スペースを設けます。

土足エリアで部屋に入る前に、プログラムなどが見られるホワイトボードを作る予定なので、そこで掲示できます。

会長：プログラムはその方法で提示できそうですね。中の様子は今のよう
に窓から覗いて確認していただけると嬉しいです。以上です。

会長：その他ご意見、質問等ありますか。

委員：4月にでんでんむしのへやで安城学園高等学校の生徒が週末に読み聞かせを行いました。その時、最初は親子が1組くらいしかおらず、最終的に数組集まって読み聞かせを実施しました。

その後、職員の方から「ららぽーとができた関係で、読み聞かせに参加する親子がかなり減っている」と聞いたのですが、実際のところ、他の読み聞かせの会は参加者がそれなりにいるのか、それとも大きく減少しているのか、現状を知りたいです。

事務局：ららぽーとができてから、読み聞かせの参加数が減ったかどうか、というご質問でしょうか。

委員：はい。今後も生徒の読み聞かせを続けていくことは、高校生の不読率が上がっている中で、不読率の低減にもつながるという目的もあって図書館から依頼があります。ただ、あまりにも集客が少ないとどうなのかという気持ちもあります。私たちはその1回しか参加したことがなく、他の読み聞かせの状況が分からないので、現状を知りたいという意図です。

事務局：ありがとうございます。「子どもがららぽーとに行ってしまった、図書館に来なくなっているのでは」という点も含め、読み聞かせの参加人数の数字は取っています。ただ、令和6年度の集計は出ている一方で、令和7年度は作成中で、まだ数値が出ていません。

館長：ららぽーとが原因と言い切れるかは確定しづらいところがあります。

しかし、ららぽーとができてからアンフォーレの入館者数は減っており、1 割まではいかないものの減少傾向にあります。また、イベントは内容によっては来館が見込めるものもありますが、図書館全体としては全国的にも貸出数が減っている傾向があり、安城市が貸出冊数で全国 1 位という状況でも減っているというのが実情です。

そのため、読み聞かせのニーズ自体も減っている可能性はあるものの、確定的な数字が揃っていないので、次回の 10 月開催の第 2 回図書館協議会で昨年度分の数字を整理して報告できる見込みです。

会長：おはなし会を行う側から見た参加者の人数は、多い時と少ない時の差が本当に大きいです。少ない時は 1 人のこともありますし、今日は誰も来ないかと思ったところに、やっと 1 人来てくれたという時もあります。逆に多い時は 20 人近く来ることもあります。ただ、それがなぜなのかは、こちらでも検証できていないので理由は分かりません。

ただ、ららぽーとができてから参加者数が急激に減ったという実感はないので、私もそれを原因として断定はしていません。

どちらかというところ、読み聞かせは子どもというより、興味のある親御さんが連れて来るパターンが多いです。親御さんが連れてこないで来館が難しいことも多く、近所の子が 1 人で来るケースは全くないわけではないですが少ないという印象です。それから、私たちは土曜日の午後におはなし会をやっているのですが、子どもが塾や習い事で忙しく、「時間がないから帰るよ」となって、子ども本人は聞きたくても途中で帰ってしまうこともあります。なので、1 回の参加者数だけで一喜一憂せず、もう少し長い目で見ていただきたいのですが、高校生の読み聞かせについてまた来られた時にお話は伺えますでしょうか。

委員：できればそうしたいのですが、まだ日程が決まっていない状況です。

会長：可能であれば月 1 回、難しければ学期に 1 回でも良いので、ぜひ続けてやっていただけるとありがたいです。

あと、他のおはなし会は平日開催が多いですね。週末開催はほとんど私たちおはなしレストランだけですね。

事務局：そうです。ボランティアグループとしては、平日の方が幼児・乳

児を対象にしやすいという事情があります。

会長：にちようびのおはなし会は職員さんがやっているんですね。

事務局：日曜日の小学生向けのおはなし会は、職員が毎週日曜日に実施しています。

会長：でしたら、ぜひそのおはなし会に、1 回でも良いので、全員とは言いませんが、聞きに来ていただけると良いかなと思います。以上です。

事務局：ありがとうございます。

委員：子どもカウンター（仮称）についてですが、私のイメージでは、子どもが分からないことがあった時にカウンターの職員に聞きに行き、パソコン等の機器を使って調べてもらうという形です。

ただ、子どもがたくさん来た場合、職員が 1 人で機器も 1 台だと、待ち時間が発生してしまうのではないかと思います。職員は何人くらいで対応し、機器は何台設置する予定でしょうか。

事務局：運用はまだ詰めきれていない部分もありますが、現状の想定としては、カウンター内に入る職員は 1 人です。機器も業務用として 1 台のみを予定しています。基本的に検索機などは今置いてあるものを使い、職員が検索して見せてあげる形にします。子どもが自由に触って使うための機器を置く予定はありません。

委員：そうすると、スライド資料の図で見ると子どもが座れるコーナーがあり、1 人の子が質問して対応している間、周りの子は待っているだけという状況になりますか。待ち時間が続くと「もういいや」とその場を離れる子もいるかもしれませんし、待てない子もいると思ったので気になりました。

事務局：カウンター内に入るのは基本 1 人を想定していますが、フロアでは本の排架などをしているスタッフが常に 2 人くらいいる状態です。

いつでも声をかけてよい体制にして、必要に応じて内部連絡で来てもらうように呼ぶという形にすれば、追加対応も可能だと考えています。

委員：分かりました。ありがとうございます。

委員：話を少し戻して恐縮ですが、先ほどおはなし会に来る人が少なくなっているという話があったので思ったことがあります。もし既に実施さ

れていたら申し訳ないのですが、近くの保育園などとコラボして、保育士さんが小さい子どもたちを連れて歩いているのを見かけることもあるので、園児の皆さんにこちらへ来てもらって、おはなし会に参加していただくような取り組みができないかなと思いました。

館長：保育園側では、園児を連れて来てくださったり、図書館職員が園に伺ったりといったことは、これまでも実施しています。

ただ、園のカリキュラムの中で「水曜日の何時は図書館に行っておはなし会を聞こう」のように組み込めるかどうかは、現時点では分かりかねますので、実施可能な方法があるか探ってみます。

委員：小学校も中学校も、学校や教室に足が向かない子が増えています。その中で、主な事業③の「令和8年度の取組み」に、不登校児童生徒向けの機会の創出として、図書館への来館機会の確保や読み聞かせの実施があると知り、とても素敵な取組みだと思いました。

質問が2点あります。1点目は、この取組みをどのように周知しているのか。2点目は、主な事業④の図書システム・機器更新にある「小中学校の生徒が学校図書館のIDで電子図書館を利用できる」という点について、学校現場でこういうふうに借りることができるかと広めたいのもう少し詳しく教えてほしいです。

事務局：不登校児童生徒向けの図書館への来館機会の確保についてご説明します。教育センター内に「ふれあい学級」という、不登校の子どもたちが通う教室があります。そこに月1回、アンフォーレ課の職員が伺い、読み聞かせを行います。あわせて、知らない大人とも接してコミュニケーションを取る目的で、30分ほど一緒に遊ぶプレイタイムも設けています。もう一つは、逆にアンフォーレに来てもらう取組みで、教育センターからバスでアンフォーレへ来館してもらい、館内で一緒に本を見たり探したり、遊んだりする機会を作っています。

こうした形で、月2回不登校の児童生徒と関わる機会を設けている状況です。

委員：これは、ふれあい学級に所属している子どもへのサービスでしょうか。

事務局：はい、そうです。

事務局：次に、2 点目の質問の図書情報館 ICT 機器更新事業の「学校図書館と電子図書館の連携拡張」について詳しくご説明します。

現状、安城市の電子図書館は、図書情報館の利用者カードを持つ市内在住者に限って利用できます。また、学校図書館のシステムでは毎年、市内小中学校の児童生徒に 1 人 1 人 ID が割り振られています。パスワードの運用については教育委員会との調整が必要ですが、その児童生徒の ID で電子図書館のホームページからログインすると、図書情報館の利用者カードを持っていない児童生徒でも安城市の電子図書館を利用できる形に来年度からなります。近隣では刈谷市・知立市が実施している取組みです。説明は以上です。

委員：ありがとうございました。本に触れる機会が増えるのはとてもありがたいです。

委員：でんでんむしのへやの土足エリアが増えるのは良いと思います。

ただ、土足エリアと土足禁止エリアの境界をどう作るのかが気になります。段差を付けるのか、床の素材を変えるのかなどです。

図書館友の会は年 4 回こちらを使わせてもらっていますが、午前中の前半・後半で、例えば図書の時間に土足のまま後ろで立って見られる場所ができれば、もう少しお客さんが入りやすくなるのではと思います。そこは良い点だと思っています。一方で、土足部分が増えると、靴を脱いで座っておはなし会をするスペースが狭くなってしまうのではないかという心配もあります。それから、境界が分かりにくいと「靴のまま上がらないでください」といちいち注意しなければならないのではないかという点も懸念しています。

館長：図面がなくて申し訳ないのですが、部屋の奥にステージがありますが、あの一段上がった高さを基準にして、その高さのところまで土足エリアを延ばしていきます。

土足エリアは、図書情報館 3 階健康支援室・講座室のカーペットと同じような形で同じ高さのまま広げます。そして、ステージの高さ分だけ上がった状態のエリアを「土足禁止エリア」として伸ばす形になります。

素材はおそらく柔らかいものになると思いますので、靴で上がらないよう、段差のところで「靴を脱いでください」という表示を団体の皆さんにも分かるように行い、靴を脱いで一段上がるという設えにしたいと考えています。土足エリアを広げることで入りやすくなるメリットがある一方で、おはなし会の際に赤ちゃんがゴロゴロできるエリアが減るというデメリットもあり、どうしても一長一短が出てきてしまうのですが、既に土足エリアを広げる方向で業者と図面作成・発注まで進めていますので、その点をご容赦ください。新しい形で、各団体の皆さんが使いやすいように、新たな使い方を工夫していただければと思います。

委員：ありがとうございます。

委員：スマホで使う図書館ウェブサイトについてですが、利用者カードのバーコードがスマホに表示できるのはすごく良いと思います。

その一方で、スマホでの検索や予約のシステムを、もう少し直感的に使えるようにできないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

事務局：実はすでに既存の業者と更新契約をしております、おそらくイメージされているのはアプリ化かもしれませんが、アプリ化は難しいという回答を業者から得ています。

また、ユーザーインターフェイスについても使いづらいというご意見をいただくことはあります。そうしたご意見があった場合は、できる限り業者に伝えるようにしています。可能な範囲で分かりやすいデザインになるよう作りますが、難しいところもあるというのが正直なところです。

委員：それは予算の問題でしょうか。

館長：はい、予算の問題です。ただ、最大限みなさんが使いやすいユーザーインターフェイスになるよう調整していきますし、「こういう機能があった方が良い」といった具体的な要望があれば、個別にお話を伺うこともできますので、よろしくお願いします。

委員：ありがとうございます。

委員：先ほどの資料の説明の中で高校生の不読率が 42.8%とあります。おそらく不読率を下げるために、ヤングアダルト（以下 YA）向けの電子書

籍読み放題パックを導入されたのだと思います。ただ、私自身も「ら Books」にすごく小さく付いていたバーコードを見つけて、今回会議に参加するので知ったという状況でした。高校生がこのサービスの存在をどれだけ知ってもらえるように周知しているのかが気になります。

それと、YA 向けの電子書籍読み放題パックの内容も見たのですが、今は 64 タイトルくらいで、スマホだと電子書籍を読むより SNS など別の方を見てしまうことも多く、不読率低減につながるかは少し難しい面もあると感じています。うちの高校では春と秋に朝の読書を 3 週間行いますが、本が読めない生徒が非常に多いです。一方で、SNS などで大きく反響を呼んだ本があると、それを手に取って、そこから本に興味を持つ子もいます。なので、今の子の関心に合った展示があると、手に取る子が増えるのではないかと思います。さらに、総合的な学習（探究）の時間も調べる段階から、地域課題の解決やプロジェクト立案など、次の段階に進んできています。YA コーナーの蔵書も、まちづくりに関する本や自分たちに何ができるかにつながる本、例えば人口減少、バス利用者数など根拠になるデータに触れられる資料があると良いと思います。また、レファレンスを使うにしてもどう聞けば良いか分からない子も多いので、探究学習が変化していることも念頭に、YA コーナーも変えていただけたらと思います。

館長：貴重なご意見をありがとうございます。正直に申し上げますと、小中学校や保育園は安城市の関係機関なので、周知や連絡のルートがあり、情報を届けやすいです。一方で高校は、図書館として直接のルートを持っていない面があり、高校生へのアプローチをどうするかは、図書館だけでなく各部署に共通する課題でもあります。逆に高校生に対して図書館の取組みをどう届けられるか、どういうルートがあり得るのか、今後で構いませんのでご教示いただけるとありがたいです。同様に、総合的な学習（探究）の時間が今どういうフェーズで、どんな本のニーズがあるのかも、私たちは直接情報をつかみにくいので、こうした場でも別の機会でも、情報共有いただけると大変助かります。引き続きよろしくお願いします。

副会長：今のお話に関連して、総合的な学習（探究）の時間が変わってき

ているという点については、図書館でできる支援としてパスファインダーがあります。調べ方案内として作成して配布し、ホームページでも公開できますので、充実させると良いと思います。また、中高生の読書を広めるための発信については、図書館としても SNS を使って発信するのが、中高生が見やすいのではないかと思うので、有効活用していただければと思います。

ここから別件ですが、今年度は整備事業や ICT 機器更新など大規模事業が多く、図書館情報館職員の皆さんは大変だと思います。ICT 機器更新は 7 億 5 千万円規模とのことですが、平成 29 年度から更新していないという理解で良いでしょうか。

事務局：更新は 5 年に 1 回で、前は令和 3 年度に実施しています。

ただ、その際は一部の機器は継続使用し更新していないため、今回は全ての機器を更新する形になります。

副会長：機器は更新していなかったということでしょうか。

事務局：平成 29 年度からそのまま使っている機器も一部ありますが、今回は予約本受取機など機器全てが更新となります。

副会長：前はどちらかというとソフト面の更新が中心だったということでしょうか。

事務局：ハードもパソコン更新などには行いましたが、予約本受取機や読書通帳機など、使えるものは一部更新せずに継続使用する形でした。

副会長：定期的に更新してきたのだと思っていましたが、今回の更新が大規模になっているのはそういう背景があるのですね。安城市図書館は ICT をフルスペックで活用していて全国的にも注目されているので、この規模の予算になるのは理解できます。できれば 5 年ごとにコンスタントに予算を確保し、すべて更新できる形にしてほしいです。5 年を超えると保守料が上がり、予算が保守に取られてしまいます。財政課や情報システム系部署も含め、5 年ごとの更新を仕組みとして回す形が望ましいと思います。私の経験でも 6 年目に入ると機器が不安定になり、ヒヤヒヤしながら運用することがありました。

また、大規模更新ではデータ移行が最も大変で費用もかかります。結果として同じ業者に依存しやすくなる構造があります。データ移行は同

じ業者だとやりやすい一方、別業者になると上乗せ費用が必要になることも多いので、次回更新に向けて同じ業者への依存についても検討してほしいです。以上です。

事務局：補足です。今回の図書館システムはプロポーザルの結果、現行の業者と進める形になります。そのため、データ移行については、新しい業者が変わる場合より心配は少ないと考えています。

委員：高校生の不読率低減についてです。高校全体で、大学入試を年内入試でチャレンジする子が増えていると思います。その関係で、AIを使うとそれっぽい指南書や小論文が作れてしまう面もあります。

でも、難関校を目指す子は実際に新書などを読んで準備します。今日も難関校を目指している子から依頼があり、新書をいろいろ借りに来たところです。ただ、行きたい大学の過去問で「この新書が使われた」と分かって検索しても、アンフォーレに所蔵がない場合があります。大学入試のためなら生徒は読むので、「過去の入試問題に使われた」「読んどくと良い」といった新書を、幅広いジャンルで集めてもらえると良いと思います。それをまず高校の先生に周知して、先生から生徒に「読みなさい」と言ってもらえると、読めない子も必死になって読もうとするので、娯楽とは違うアプローチですが、そういう方法もあるのではと思っています。

委員：今のお話に関連して、高校生の不読率を下げるという点について、就職や大学進学を目的にしている子が多いと思います。その場合、すでに大学に行った人や就職した人など同年代より少し上の人から「この本を読んですごく役に立った」という紹介があると、聞く耳を持つのではないかと思います。そういう機会を設けてはどうでしょうか。例えばアンフォーレで協力してくれる大学生等を探し、学校側も「アンフォーレでこういう企画がある」と周知して、進路を考えている子に「行ってみたら」と勧められると良いのではという提案です。

館長：ご意見ありがとうございます。入試の切り口は面白い提案だと思います。「これを読んどくと良い」と勧められて、高校生に読まなきゃというスイッチが入るのは、どのタイミングでしょうか。

委員：準備は今くらいから始めています。夏休み明けぐらいが多いです。

館長：様々なご意見ありがとうございます。去年はアニメーション監督を呼んで、仕事内容やそのためにどういう情報を得ておくといいかという形で、いろんなアプローチから「本を読んだ方が良い」につなげる講座を実施しました。いただいたご意見を参考に、今後検討したいと思います。

委員：続けて関連の話になりますが、「この本を読んでおいた方が良い」という情報は、私もそうですが、高校生も全部 SNS から入っていると思います。読んでおいた方が良いランキングでもいいですし、年代別に今週たくさん借りられた本ランキングのようなものがあると、この本面白そうだと思って来館する人が増え、まず図書館で借りてみる行為につながるとと思います。図書情報館は SNS はやっているのでしょうか。

館長：図書館の X は持っています。ただ、フォローしてもらえないと届きませんし、そもそも図書館に興味がないとフォロワーにならないので、難しいところがあります。

委員：今は X より、Instagram や TikTok だと思います。流れてこないとフォローもしないですし、フォローされなくても SNS 上で流れないと本を借りようとは思わないので、そこを頑張っていただきたいです。

館長：X に加えて他の SNS もとなると職員側の負担増加もあり、手一杯な面はありますが、前向きに検討します。

副会長：X でも Instagram でもいいのですが、高校生を巻き込んで、例えば図書委員などに、自分たちでおすすめ本を書いてもらい、それを図書館から発信していくのはどうでしょうか。参加してもらい、自分たちで選んで、読んで面白かった本を紹介するなど、連携して進めると良いと思います。

委員：どうしても言いたかったことがあります。今、本を読まない子が増えているのですが、それだけではなく、人の気持ちが分からない子がすごく増えている気がします。

例えば国語科の教員が戦争の話を取り上げようとしても、目を背けて、「怖い」「気持ち悪い」と言ってみようとしません。子が増えています。

そこで安城学園高等学校では、アンフォーレの児童書を借りたり、授業の導入で戦争の小説を読んだりして、写真や動画とは違う視点から感じ取ってもらう、という授業を行ってきました。私自身も強く感じているのですが、「人の気持ちが分からないから苦しい、自分の気持ちや考えは聞いてほしいのに、人の意見は聞く気がない」という子が非常に増えています。

本は、行間を読み取る力、自分で想像していく力が必要になります。だからこそ、読書は幼少期からとても大事だと思っています。

これからも、少しでも多くの若者が読書をしてもらえるように、私も頑張りたいと思っています。

会長：活発なご意見をありがとうございます。その他に、言っておきたいことはありますか。意見は出尽くしたようですので、協議事項(2)はここで終了したいと思います。進行を事務局にお返しします。

事務局：浮森会長取り回しありがとうございました。それでは最後に次第6「その他」でございます。今年度の図書館協議会ですが、次回が10月26日(月)午後1時30分の開催予定です。また第3回につきましても、来年令和9年2月8日(月)午後3時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、本日の第1回安城市図書館協議会を終了させていただきます。お気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。

閉会：午前11時20分